

近江鉄道線を活かした市民活動の広場と仲間づくり

人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀 事務局

山田和昭 南村多津恵 芝久生 戸田浩司

yasashii.kotsu.shiga@gmail.com

はじめに

滋賀県の東部、10 の市町を走る近江鉄道線（全長 59.5 km、駅 33）は、2023 年に開業 125 周年を迎えた歴史ある鉄道です。しかし、利用者はピーク時に比べて約三分の一に減少し、2016 年 6 月に「民間企業の経営努力による事業継続は困難」というギブアップ宣言がなされました。その後、滋賀県と沿線市町による法定協議会の議論を経て、公設民営の「上下分離方式」により鉄道線の存続が決定し、鉄道施設（下部）は地元の行政、鉄道運行（上部）は近江鉄道が担う体制で、2024 年 4 月から新たに再出発します。これからは、鉄道施設を地元が責任を持つこととなります。つまり、そこに住む市民の役割が重要になります。そこで、市民サイドの新たな取り組みを共創の考えも取り入れ、「鉄道をどうするか」ではなく「鉄道でどうするか」といった問題意識で、まずは行動を起こしていくための仲間づくりと行動を起こしていく人材育成の取り組みを始動しました。まだまだ課題や問題、取り組むべき事項は多いですが、以下、その取り組み始めた一端を報告します。

年月	事項
1986 年（明治 29 年）6 月	近江鉄道株式会社設立
1898 年（明治 31 年）6 月	彦根～愛知川間営業開始（12.1km）
1914 年（大正 3 年）3 月	多賀線開業
1931 年（昭和 6 年）3 月	米原～彦根間開業し本線全通
1944 年（昭和 19 年）3 月	八日市鉄道を合併、八日市線。
1967 年（昭和 42 年）	輸送人数のピーク 年間 1,126 万人
1994 年（平成 6 年）	鉄道事業が営業赤字へ転落
2002 年（平成 14 年）	輸送人数 年間 369 万人まで落ち込む
2016 年（平成 28 年）	滋賀県に経営努力による事業継続が困難と説明
2017 年（平成 29 年）	県・沿線市町・近江鉄道による勉強会
2018 年（平成 30 年）12 月	近江鉄道活性化再生協議会設立
2019 年（令和元年）11 月	近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会 設立
2021 年（令和 3 年）10 月	近江鉄道沿線地域公共交通計画 策定
2021 年度～2023 年度	3 年間の運営改善期間
2022 年（令和 4 年）12 月	一般社団法人近江鉄道線管理機構 設立総会
2024 年（令和 6 年）4 月～	上下分離方式へ移行

* 近江鉄道に係る経緯（設立～上下分離移行）

（鉄道（公共交通）×まちづくり×市民活動）

もし地域に鉄道がなかったら「まち」はどうなっていたでしょうか？移動を車だけに頼った暮らしが続けば、「まち」はどうなるのでしょうか？上下分離された近江鉄道を活かすためには地元の力が必要で、交通事業者だけではなく、行政、市民の協働・共創で新たな地域づくりができるようになっていくことが大事なことで考えます。ただし、そうした三者の思いをつなげていくためには、それぞれの思い・意向を繋いでいくコーディネーターが必要です。そこで大学関係者、交通事業者、NPO 団体等の有志が集って「人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀」を立ち上げ、併せて、国土交通省から「共創モデル実証プロジェクト（共創による地域交通形成支援事業）」の支援も受け、まちづくりと交通の広場しが 2023を企画し、交通まちづくりをプロデュースできる人材を育成する取組を始めました。2023 年 10 月から 12 月の 3 カ月間「まちづくりと交通の広場しが 2023～近江鉄道線を活かした交通まちづくりフォーラム」を連続開催し、交通まちづくりの方法やヒントを実例から学びながら、参加メンバーとともに考え、共感を広げ、連携した取り組みを進める仲間をつくる活動を展開しました。

まちづくり×交通×市民活動 連携



まちづくりと交通の広場しが2023

2024年（令和5年）9月6日に滋賀県庁での取組のキックオフとなる記者会見を行い、プレ企画やフィールドワークなども交えた連続フォーラムを実施していきました。フォーラムは各回別でテーマを設け、講演とディスカッション、ワークショップを重ね合わせた密度の濃いプログラムで、県外からの参加者も多く、毎回、新しい発見と気づき、そして熱い議論があり、最終日の修了式は、参加した皆さんの未来を見つめる気持ちがあふれる形で2023年の取組を終えることができました。このフォーラムでは「広場」という共通ワードから鉄道（交通）を考察していきました。駅はみんなの広場で、鉄道を使う人も使わない人も、誰もがなんとな〜く集まれる場所です。駅で待つことは辛いことではなく、楽しむことをする場所、何をするかは使う人の自由です。「まち鉄活動どうですか？」という言葉も生まれるなど、フォーラム自体が自由に意見交換できる「広場」になっており、今後の「広場」を作り広げていくためのベースキャンプができたと思います。

まちづくりと交通の広場しが2023 開催経緯

日程	事項	テーマ・内容
9月6日（水）	記者会見	まちづくりと交通の広場しが2023キックオフ
9月23日（土）	プレ企画	「カーフリーデーふくい2023」視察
10月9日（月祝）	第1回フォーラム	まちづくり×交通で地域を元気に！
10月14日（土）	フィールドワーク	近江鉄道100円でいつもと違うまちを楽しもう
11月12日（日）	第2回フォーラム	交通を変えることでQOLを上げたまち・福井
自主研究	フィールドワーク	近江鉄道沿線の広場を探そう
12月10日（日）	第3回フォーラム	私たちのまちと交通のないする？
自主研究	フィールドワーク	自由に近江鉄道を楽しもう
12月16日（土）	第4回フォーラム	みらいのまちと交通を考えよう・修了式

アイデアを実践へ これからのこと

各フォーラム後半のワークショップでは、毎回、様々な議論があり、多くのアイデアが生まれました。ここで浮かんだアイデア、そして仲間との思いを具体化するために、「まちづくりと交通の広場」は続きます。例えば、大学から企画に参加した先生方からは、近江鉄道沿線全

体をキャンパス＝学びの場にするという「コミュニティ・モバイル・カレッジ」構想も提案されました。ワークショップの場では近江鉄道×自転車、駅ごとバルフェス、地域おこし協力隊合同イベント、沿線の店の車内販売、子ども武将電車、我がまち自慢ジオラマコンテストなど、すぐに取り組みが進められそうな多くの実践的なアイデアが生まれており、今後はその実行です。修了式で「やさしい交通しが」の代表が述べた次の言葉そのものがまちづくりと交通の広場しが進む指針を示しています。「このフォーラムで、鉄道には人や地域をつなぐ力があることを実感されたと思います。上下分離で来年4月から近江鉄道線が地域に住まう私たちのものになることによって、人をつなぐ仕掛けを自分たちで実践していくことができるようになります。この4回をスタート地点として、次のフェーズに向かって始まっていきます。すぐに結果は出ないし失敗するかもしれないけれど、試すことが重要。この近江鉄道、滋賀の取組は日本のパイオニアになると本気で思っています。みんなで進んでいきましょう！」

おわりに

近江鉄道線（交通）を通じて、まちを構成する様々な要素へ養分を行き渡らせるよう、その活動の場や支える場となる広場をつくり、つなげ、続けていく交通まちづくりを、人と環境にやさしい交通を目指して一つひとつ進めていきたいと思っています。

